

(五)續本朝通鑑―義經逃竄の事を記した他の諸書の中に續本朝通鑑が在るが、この書の記事は全然義經記を漢譯したものである。

ギケイノモノ 伎藝之者 芝居・操踊等を營業とするものをいふ。享保十七年十二月の令に、『伎藝之者他國より罷越有之徘徊仕官、頃日沙汰有之候。若は商賈などにかこつけ罷越候候て、右之族に而も候哉。町方・寺社方、御郡方、右林のもの宿不仕様に、夫々急度可被申渡事。』とある。↓カブキ 歌舞伎。

キゲンジ 龜源寺 鹿島郡三引に在つて、曹洞宗に屬する。永徳二年珠巖道珍の創立する所で、後衰微したが、永祿元年東嶺寺三代古用慶徹之を再興し、長連龍は配下の戰役者九十五士の靈牌をこゝに安置した。大永六年の一宮社務職年貢納帳に田鶴濱龜源寺とあるから、その頃は田鶴濱にあつたものと見える。寺藏に厨子入木造阿彌陀如来立像髑髏高一椀があり、その本體は室町末期乃至江戸初期の作と認められてゐる。

キコウ 義光 ↓ゲツカンギコウ 月洞義光。

キゴウエ 密合會 羽咋郡瀧谷日蓮宗妙成寺の日乘上人は百十四歳で六月廿六日薨化したと傳へる。之を以て毎年當日末院の僧徒集來し、當寺の眞首を輿に乗せ、山伏姿の者も從ひ、客殿から開山堂まで音樂の行列で、練り込む儀があつた。之を密合會といふ。密合會は密合ひ法會の意であり、往々忌諱會と書かれて居るのは誤である。

キコウレキ 照康曆 一冊。奥村榮實著。加賀藩臣の門閥八家が補せられた職務を、年次に記載したもので、貞享三年十一月十三日

前田綱紀が、初めて大年寄・人持組頭・御家老役を八家に振當てた時から初り、文化十三年まで載せてある。又同著で照康小鑑と題し、貞享三年から天保三年に及ぶ書もある。

キゴシ 木越 河北郡越前庄に屬する部落。曆應四年八月七日攝津掃部頭親秀護狀に、『嫡女子幸玉分、加賀國倉月庄内木越村云々。』とある。

キゴシサンエモン 木越三右衛門 鎧物師。元祖三右衛門諱は正之。金澤の人。横河九左衛門長久に學び、尤も鐵瓶の作に長じ、弘化二年を以て歿した。二代三右衛門正之は養子で、技術精良先代に譲らず、安政の末藩の扶持を得て御用釜師となつた。文久二年歿。三代三右衛門某、幼にして家を襲ぎ、京に學んだが、未だ蕪奥を極めずして歿した。養子四代三右衛門正次は玄瀧と號したが、時恰も廢藩に際して手腕を振ふ能はず、明治五年に歿した。

キゴヤマ きご山 河北郡戸室山の東南に近い。高さ五四八米。地質角閃安山岩。

キザキシゲキヨ 木崎重清 通稱長左衛門。山崎長門の家臣として、慶長五年大塚寺攻際に從ひ、山口右京修弘の首を獲たが、後に本藩を去つた。

ギザントウジン 義山等仁 曹洞寺の僧。奈良の人。壽山了運に見えてその法を承け、石川郡承天寺に住し、同郡大乘寺八代を主つた。寛正三年十月一日七十七歳を以て寂した。

キシカハ 岸川 河北郡五ヶ庄に屬する部落。

キシク 岸駒 本姓佐伯、岸氏、通稱乙次

部・鑑助、諱は駒又は昌明、字は貫然。華陽。同功館・可觀堂・虎頭館・天開窟・鳩巢樓・關齋等の號がある。父四右衛門は金澤に在つて裁縫を業とし、寛延二年三月十五日駒を生んだ。駒幼にして染家に仕へ、二十五歳京に上つてから漸く舊名を著し、有栖川宮から雅樂助の稱を賜はり、次いで主殿大屬に任ぜられ、文化元年越前介に進められた。同六年八月駒その男岱等と共に金澤に來つて、災後の二、丸殿閣の被隔に詣き、十二月歸京した。天保七年十二月駒積勤の功を以て藏人所衆に補し、從五位下に叙せられ、越前守に任ぜられたが、九年十二月五日に齡九十を以て歿し、洛中本禪寺に葬られた。駒の生誕地に就いては、政隣記に金澤の人とし、その子岱が金澤の菩提所那明寺に納めた父の虎の畫幅の裏書には本加州産とあるが、又その門人等が同寺に安置した位牌の裏面には越中水見人とあつて、何れが正しいとも判明し兼ねる。或はその初め父は水見に居り、駒の生後幾くもなく金澤に移つたのかも思はれる。

キシゴヤ 木地小屋 能美郡大日川の最も上流で、新保に屬する枝村。

キシタイ 岸岱 岸駒の子にして齋を能くした。一名國章。字は君猷、卓堂、虎岱、衆人、虎頭館等と號し、享和二年筑前介に任ぜられた。文化六年八月父と共に金澤に來り、災後の二、丸殿の被隔を詣き、父の歸落した後留留つて翌年九月に及んだ。慶應元年二月十九日歿。京本禪寺に葬られた。

キシダシヨウトク 岸田常徳 一に常徳寺に作る。天正八年常徳、朝倉氏の殘黨吉田某と共に、江沼郡山中に城を構へて之に據つた

が、柴田勝家來攻して、五日の後之を陥れた。この戦は龜田記に九月廿日とするが、勝家の山中湯に與へた禁制札に八月附のものがあるから、その月だらうと思はれる。

キシダン 奇事談 一冊。寶曆十三年村純清の著で、廿五條から成る。序文に據ると、癸未の秋堀麥水の三州奇談を讀んで、その續編たらしめるべく纂輯したものであると記する。

キシチユウヘ 岸忠兵衛 天正十八年關東陣の際八王子にて前田利長に仕へ、新知百五十石を受け、利常の小松隱棲に隨うて又百五十石を加へた。子孫相繼いで藩に仕へる。

キシツネミチ 岸廣道 通稱忠兵衛。天明四年父忠太夫直政の遺知三百石を襲ぎ、大小將・刑場奉行・大小將横目より次第に昇進し、文政元年百石を加へ、遂に新番頭に至り、天保元年歿した。

キシヤマタウゲ 木地山峠 能美郡大日川の上流新保の枝村なる木地小屋から、越前大野郡中野俣に越える峠。高さ一〇〇〇米。

キシユウ 吉祝 藩政の時、正月十一日知行所の百姓等土産を齎し、士家に至つて祝詞を述べることをキシウといふた。士家にては之に酒肴を饗し、百姓は田植頃など詣りて踊躍し、田草取と稱して御勿しながら堂奥に入るの無禮も尙寛假せられた。キシウは後世吉祝と書いたが、古く吉初と書かれたことは、元和二年の文書に、代官支配の農民から吉初錢を受取つたとあるによつて知るべく、元來王朝以降行はれた吉書の轉訛で、農吏が地頭に見えて農事を告げ、地頭は農民にその勤勞を賞したことなどから起り、遂に廣く百姓と